

第3編 安芸高田市のいまと未来

第1章 安芸高田市の仕事と財政

- 1 これからの安芸高田市
- 2 安芸高田市役所
- 3 安芸高田市議会
- 4 安芸高田市の財政

第2章 暮らしやすさを実現する 安芸高田市

- 1 高齢者にやさしいまちづくり
- 2 若者定住をめざしたまちづくり
- 3 協働による地域で支えあうまちづくり

第3章 少子高齢化に挑む安芸高田市

- 1 市民総ヘルパー構想とは？
- 2 安芸高田市と高齢化
- 3 安芸高田市と少子化

第4章 文化の継承に力を尽くす 安芸高田市

- 1 歴史的遺産の恵み
- 2 伝統芸能の継承
- 3 安芸高田市が生んだ芸術家たち
～見玉希望、和高節二～

第5章 観光の振興と安芸高田市

- 1 観光の振興が市にもたらすものとは？
- 2 「神楽」を中心に据えた観光
- 3 周遊型の観光地をめざして

第6章 魅力ある街へ 安芸高田市

- 1 安芸高田市ふるさと応援の会とは？
- 2 安芸高田市ふるさと応援の会
「関東支部」発足！

第1章 安芸高田市の仕事と財政

1 これからの安芸高田市

今後、安芸高田市はどんなまちをめざしていくのかな。



「市民憲章にうたった安芸高田市の心得を踏まえ、将来像の実現に向けたまちづくりに挑戦!」

< 将来像 >

人がつながる でんえんとし 田園都市 安芸高田

■人がつながる

- 地域の自然や環境との“つながり”
- 地域の歴史・生活文化との“つながり”
- 地域に暮らす多様な人との“つながり”

■でんえんとし 田園都市

でんえん 田園と山並みの豊かな緑、せいりゅう 清流に囲まれた歴史と伝統のある落ち着きを生かしながら、としてきみりよく 都市的魅力と田園の安らぎが共生したかいてき 快適でうるおいのある生活空間や、「安心」と「ゆとり」を備えた住みやすさ、たよう 多様な働く場が確保されたまちを目指しています。

■3つのちょうせん 挑戦

- 人が集い育つまちづくりへのちょうせん 挑戦
- 安心して暮らせるまちづくりへのちょうせん 挑戦
- 地域資源を活かしたまちづくりへのちょうせん 挑戦

2 安芸高田市役所

●安芸高田市役所はどのような仕事をしているのでしょうか。



わが国は、地方自治という仕組みがあり、そのために県や市といった枠組みがあります。安芸高田市は、私たち市民の日々の暮らしをより良くしていくための活動をしています。

市役所では、職員が市長の掲げる方針のもとで活動しています。内容は多岐に渡り、私たち学校のことからごみ収集や水道の整備、結婚などの戸籍の管理にまで及んでいます。



↑ 市の取組を住民に説明する様子



市役所の仕事は他にもたくさんあります。安芸高田市役所のHPを調べてみよう。

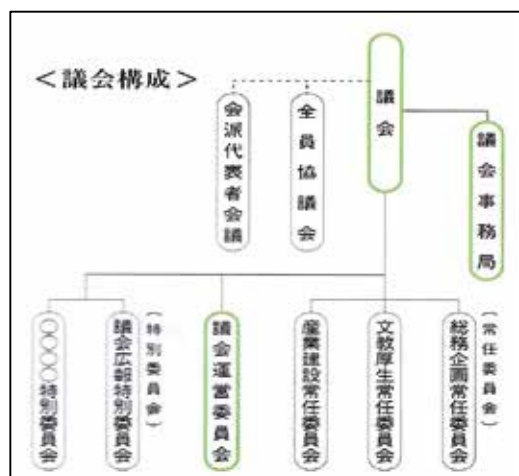
2 安芸高田市議会

●安芸高田市議会とは何でしょうか。



市議会とは、市議会議員が市の予算の決定や仕事をチェックしたり、問題点を指摘^{してき}する、条例を定めるなどして市の活動がより良くなるように話し合ったりし、議決する仕事を担っています。安芸高田市でも、市内で選ばれた議員と市の職員や市長が、年に何回も議会を開催して、市内の課題について話し合っています。

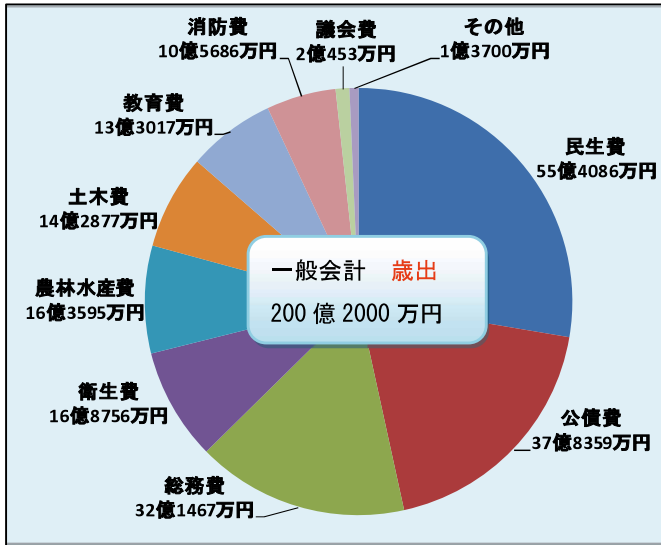
このように、多くの意見や視点が加わることで、誰もが満足できる市の政治を行うことをめざしています。



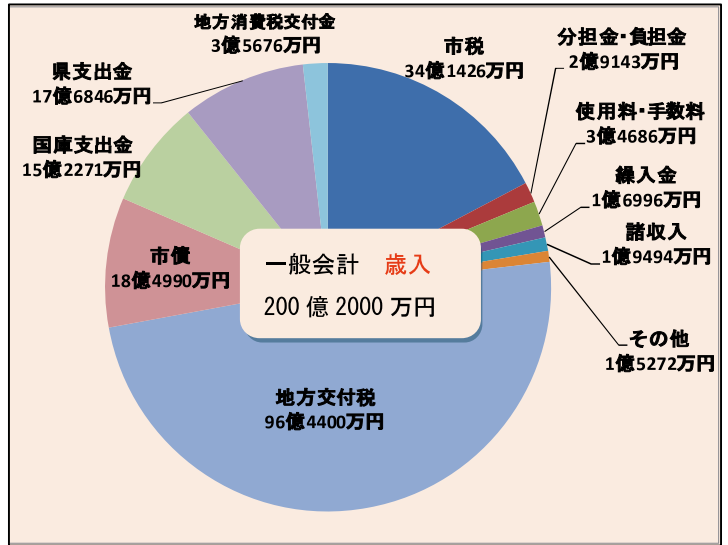
↑ 市議会の様子

3 安芸高田市の財政

●安芸高田市の財政はどのようになっているのでしょうか。



↑ 平成26年度の安芸高田市の歳出



↑ 平成26年度の安芸高田市の歳入

民生費 (27.7%)	自主財源 (22.9%)
福祉の全般的な経費	市が得たお金
公債費 (18.9%)	・市税・分担金・負担金・使用料・手数料
市が借りたお金の返済経費	・繰入金・諸収入
総務費 (16.1%)	依存財源 (77.1%)
企画、財政、選挙など一般的な行政事務の経費	国から交付されたり、借金で得たお金
衛生費 (8.4%)	地方交付税 (48.2%)
保健や環境対策の経費	一定のサービスを行えるように市町村間の財源力の差をなくすために交付されるお金
農林水産費 (8.2%)	市債 (9.2%)
農業・林業・水産業の振興のための経費	公共施設などを整備するために国などから調達した借金
土木費 (7.1%)	国庫支出金 (7.6%)
道路や河川の整備維持などの経費	市が行う仕事に対して国から支給されるお金
教育費 (6.6%)	県支出金 (8.8%)
学校や公民館・博物館などの経費	市が行う仕事に対して県から支給されるお金
消防費 (5.3%)	地方消費税交付金 (1.8%)
消防や火災予防に関する経費	地方公共団体が自由に使えるお金
議会費 (1.0%)	
議員の報酬などに使われる経費	



インターネットで他の市町村の財政を調べて比べてみよう。安芸高田市の財政面の特徴が分かるよ。

第2章 暮らしやすさを実現する安芸高田市

1 高齢者にやさしいまちづくり

●安芸高田市は高齢者等にやさしいまちづくりにどのように取り組んでいますか。



安芸高田市では、「人がつながる田園都市 安芸高田」を将来像にかかげ、人が集い育つまちづくりを推進しています。誰もが安全で快適に暮らせる魅力ある田園都市をめざすとき、バスが重要な公共の交通手段となっています。しかし、近年では便数の減少により、高齢者の通院や高校生の通学に不便が生じていました。そこで、安芸高田市では新公共交通システムという取組を行っています。

具体的には、朝と夕方は市の負担で路線バスを増やし、主には通学での利用者の利便性を向上させます。その間の昼の時間帯は、「お太助ワゴン」という車両が活躍します。予約をすれば家の前まで迎えに来て、市中心部まで運んでくれ、帰りも同様に家まで送ってもらえるというシステムです。高齢者の通院や買い物によく利用されています。このようなきめ細やかなサービスは県内唯一の取組です。

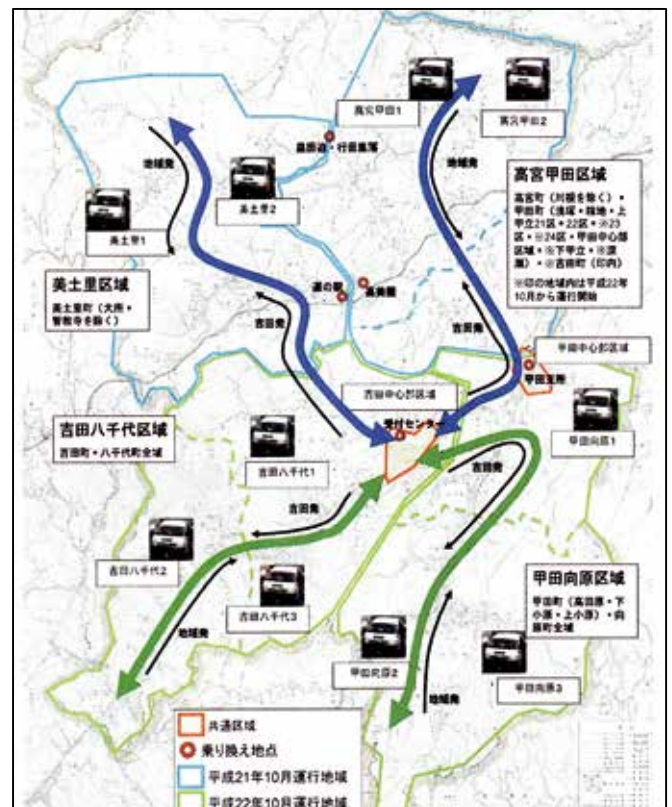


↑お太助けワゴンを利用する高齢者



↑路線バスの運行の状況

※赤線は朝夕のみ運行するバスを示す



↑お太助ワゴン運行区域

2 若者定住をめざしたまちづくり

- 安芸高田市ではより良い住宅を求める人に対してどのような支援がされているのでしょうか。



暮らしにおいて住居とは基本となるもので、その充実は暮らしやすさの重要な要素です。また、住宅の増加は人口増と直結しています。そのため、安芸高田市はより良い住宅を増やすための取組を進めています。

例えば、市が住宅用地を準備し、新築の住宅を建てて入居する世帯には手厚い補助金を交付しています。それによって、市外からの定住者を増やすということもめざしていますが、市内の賃貸住宅で暮らしている人に持ち家に住み替えてもらおうというねらいも含まれています。新築への支援以外にも、高齢者が暮らしやすいバリアフリー住宅等へのリフォームへの支援もあります。



↑ イベント時の定住PR

また、市内で住宅を建てる際やリフォームの際に市内の建築業者に依頼することで、市内の建築業者への良い影響も期待されています。

3 協働による地域で支えあうまちづくり

- 市内に 32 団体もある「地域振興組織」とは何でしょうか。



安芸高田市では、32の「地域振興組織」による活動が定着し、全国的な知名度を誇る取組が見られます。安芸高田市は面積が広く地域的な特徴もさまざまです。地域ごとに重点的に頑張りたいことも違い、それに対応するためにも地域に根差した組織は大切な存在です。

祭りなどの地域の行事から、児童生徒の登下校の安全確保、高齢者福祉、自助・共助による防災など、地域振興組織の活動は多岐に渡り、住民みんなで支え合って運営されています。また、オリジナル商品を開発・生産販売して産業を生み出している組織もあり、精力的な活動が各地域で進んでいます。



他にどのような取組があるのか、市の広報誌やHPを調べてみよう。



↑ 地域振興組織が中心となって開発した商品

第3章 少子高齢化に挑む安芸高田市

1 市民総ヘルパー構想とは？

●安芸高田市の福祉政策はどのような考えで進められているのでしょうか。



市民総ヘルパー構想は、住民相互の助け合いによる福祉や介護などの充実をめざす安芸高田市が提唱しているものです。行政による福祉は、予算などの面から限界があります。それを市民同士が「お互いさまの精神」で支えあうことで補完していこうという考えで、現在ではさまざまな活動がおこなわれています。

具体的には、市民が子どもを預ったり、高齢者を見守ったりするなど、自分が得意で、できる範囲の手助けをすることにより、行政とともに手厚い福祉の体制をつくり出します。また、手助けをした人（ヘルプをした人＝ヘルパー）も自己有用感が高まり、地域を支えているという自信も生まれます。そうやって誰もが安心して生き生きとした気持ちで生活していくことのできる市にすることをめざしています。日本では、どの中山間地域も少子高齢化という問題を抱えており、安芸高田市も例外ではありません。この構想は少子高齢化への対策としても重要なものです。



住民みんなで福祉をしていくという姿勢が大切なんだね。

2 安芸高田市と高齢化

●安芸高田市は高齢化にどのような対策をしていますか。



安芸高田市の高齢化は深刻で、高齢者が生き生きと生活できる仕組みづくりは急務です。主な問題点としては、高齢者の一人暮らしが増えたことや高齢者同士の世帯での老老介護による負担の増大、外出の手段を失ったりするなどして、ろうろう買い物や散歩などの外出に慎重になる高齢者が多いということが挙げられます。それに対し、市は社会福祉協議会と連携したり、市民総ヘルパー構想の一環として市民からの有償ボランティアでの協力を得て対応したりしています。安否確認などをする巡回訪問をはじめ、買物代行や病院、散歩の付き添い、話し相手などの取組をして高齢者が日々の生活で困ることが少なくなるような活動をしています。そして、活動の充実のため、市では毎年、ボランティア育成の講座を開設しています。また、「お太助協力店」という制度があります。



↑ 高齢者に対応した福祉サービス

この制度に参加している企業・団体は市内で100店以上あります。高齢者の世帯への商品の配達の際に安否確認の声掛けをするなど、高齢者福祉に協力しています。市・企業・市民と地域ぐるみで高齢者を支えていくとする体制づくりが進んでいます。



↑ お太助協力店（編集委員撮影）

3 安芸高田市と少子化

●安芸高田市は少子化にどのような対策をしていますか。



核家族化や共働き世帯の増加は、子育てに対して厳しい状況を作り出しています。手当などの金銭的な支援は、国が政策で次々と打ち出していますが、子育てにおいては、実際に手のかかる部分こそが大きな負担となっているケースがたくさんあります。

安芸高田市では、親が安心して働くことができる、子どもを預ける場の確保に支援の重点を置き、保育所の運営はもちろん、児童館・放課後児童クラブでは対象の学年の拡大をして、多くの子どもを預かる取組を行っています。

また、ボランティアの方に短い時間預かってもらう「ファミリー・サポートセンター事業」や、子育て支援センターによる一時預かりを安芸高田市社会福祉協議会との連携で行い、親が急な用事などで忙しいときでも、いつでも子どもを預けることができる24時間保育を実現できる体制づくりを進めています。



↑ 安芸高田市子育て支援センター事業

高齢者や子育てに頑張る人の支援をしている安芸高田市社会福祉協議会の職員の話

私たちは、市と連携して高齢者の生活の困りごとの解決や、子どもを預ける場所を探している親の支援などを進めています。高齢者の「訪問してくれるボランティアの方に会うのが励みだ」という声や、小さい子を持つお母さんの「子どもを預かってもらえるので、落ち着いて買い物ができます！」という感謝の声を聞くことができる時が大きな喜びです。これからも、より良い福祉の実現に向けて頑張っていきたいと思っています。

第4章 文化の継承に力を尽くす安芸高田市



安芸高田市には多くの伝統芸能や文化財があり，県内外から訪れる人も多い。身近な歴史から多くのことを学び，自分の生き方に生かしたいですね。また，「郷土・安芸高田」に誇りを持ち，歴史と伝統を受け継いでいこうという気持ちを持ちたいですね。

1 歴史的遺産の恵み

●安芸高田市にはどのような文化財があり，保存されているのでしょうか。



第2編にあるように，安芸高田市には豊かな歴史があり，それに伴って多くの文化財が残されています。安芸高田市のホームページで一覧を見ることができます。

このような文化財は後世へ残すための保存と，学習するための活用が大切であるとされており，そのための中心施設として「安芸高田市歴史民俗博物館」があります。博物館の特徴としては，民具が多く展示され，学校の授業では扱うことが少ない，一般の民衆の歴史や当時の暮らしを感じることができるようになっています。

その他にも，古墳・寺などの文化財は市内各地にあります。例えば，甲立古墳のように多くの歴史関係者が注目するような文化財もあります。それら文化財の保存には，多くの方の苦勞と努力，費用がかかっています。

歴史とは遠くにあるものではなく，身近なものであることを理解し，愛着を持つことが大切です。



↑ 博物館の収蔵品
(安芸高田市歴史民俗博物館提供)



安芸高田市歴史民俗博物館には，原始から現代までの流れに沿った展示もあるから，安芸高田市から日本の歴史を考えることもできるよ。安芸高田市の歴史を学ぶイベントなども開かれているよ。

2 伝統芸能の継承



● 安芸高田市の伝統芸能を継承していくために、どのようなことが大切なのでしょうか？

安芸高田市には、多くの伝統芸能があり、国の重要無形民俗文化財に指定されているようなものもあります。それらは多くの観光客を呼び、市のシンボリックな存在になっています。しかし、どの団体も後継者不足に悩まされ、芸能の継承が問題となっています。その課題に対して様々な対策が行われ、伝統芸能を次の世代につないでいこうとしています。

「土師の田楽」（八千代町）は、中学校で田楽に取り組むことで継承を図っています。生徒は地域の行事や学校行事で披露し、地域住民への普及にも貢献しています。このように学校と協力して伝承していく取組は甲田町などの他の町でも行われています。

「吉田神楽団」（吉田町）は、「郡山子ども神楽団」という組織をつくり、継承に向けた取組を進めています。大人の神楽団の練習の前に集まり、団員の方の指導を受けます。公演などの発表の場も用意しています。同様の取組は市内の多くの神楽団でも行われています。

また、「羽佐竹神楽団」（高宮町）は、市外での普及を図っています。本川小学校（広島市中区）で神楽の教室を開き、指導をしています。神楽そのものの素晴らしさや、安芸高田市の素晴らしさをPRしていくこともこの活動の目的となっています。

やり方はそれぞれで違いますが、昔の人が守ってきたものや地域の大切な歴史を途絶えさせない取組は、このような努力によって続けられています。



↑ 土師の田楽をする様子
(八千代中学校提供)



↑ 子ども神楽団の練習の様子
(郡山子ども神楽団提供)



↑ 本川小学校での練習の様子
(羽佐竹神楽団提供)

広島市での「神楽ふれあい教室」について羽佐竹神楽団の団長のお話

市外の方に神楽に親しんでファンになってもらうことは、今後の市の活性化につながると考えています。教室では神楽の技能も教えますが、礼儀作法など精神的な面の指導も大切にしています。

伝統芸能を残していくために、他に私たちに何ができるのか。

3 安芸高田市が生んだ芸術家たち ～児玉希望^{きぼう}、和高節二^{せつじ}～

●児玉希望^{そくせき}の足跡をたどってみましょう。

児玉希望^{こだまきぼう}（本名省三，1889～1971）は来原村（高宮町）で生まれ，吉田尋常高等小学校^{じんじょう}の高等科を卒業。地元での教員生活をやめ上京し，人力車を引く仕事をしながら画家を志し，川合玉堂^{かわいぎょくどう}⁽¹⁾に教えを受けました。入門してわずか3年の23歳の時に帝展で初入選を果たしました。以後，数多くの作品を制作し，帝展の特選を2度受賞，後には日本芸術院賞も受賞しています。

画風^{さいみつ}は細密な花鳥画や写実的な描き方の風景画で，伝統的な日本画の描法に加え，西洋近代絵画の研究を進め，日本画に斬新な色彩^{さんしん}などを取り入れました。また，写実と色彩を追及することに留まらず，常に新しい表現を追求し続けました。59歳の時には，欧州に1年間滞在し，古今の西洋美術を鑑賞し，各地でスケッチを行い，ローマとパリで大規模な個展を開くなど，探求を続けました。

また，奥田元宋^{おくだけんそう}など多くの弟子の指導にも尽力しました。



児玉希望



武者図⁽²⁾（簾八幡神社）



大川端（高宮中学校）



浅春（広島県立美術館）



暮春（広島県立美術館）



鷲（安芸高田市）

●**和高節二の足跡をたどってみましょう。**

和高節二は（1898～1965）は長田村（向原町）で生まれました。画家を志し 20 歳で上京しました。以後頻繁に東京に通い、川端画学校を中退後、平福百穂⁽³⁾に教えを受けましたが、制作の拠点を移すことなく、山里で農作業と作品制作を続けました。1940（昭和 15）年の紀元二千六百年奉祝日本画大覧覧会で『牡牛』が最高賞となり、一躍時の人となりました。

しかし、節二はその後も画家としての出世には目もくれず、生涯自分の納得する作品を地道に発表し続けました。農村に生きる人々、ともに暮らす牛など、節二の画題は、常にふるさと向原にありました。自分の思いを綴った『述懐詞』⁽⁴⁾には、自分と向き合い画業と向き合った節二の思いがにじみ出ています。

1990（平成 2）年、病弱ながらも明治から平成を生き抜き、92 歳で亡くなりました。

絵に向き合い表現を追求する姿勢や故郷を思う気持ちをとても強く感じたよ。



和高節二



牡牛 縮図掛軸作品（個人蔵）



平和の里（徳栄寺蔵）



供出日（下絵）（安芸高田市）

注（1） 川合玉堂（かわい ぎょくどう） 日本画家。日本の四季の山河と、そこで生きる人間や動物の美しい墨線と彩色で描くことを得意とした。1873-1954

注（2） 武者図 希望 13 歳の時の作品で、生家近くの神社に奉納したもの。

注（3） 平福百穂（ひらふく ひやくすい） 日本画家。絵画における自然主義、写実主義を主唱。アララギ派の歌人としても知られている。1877 - 1933

注（4） 述懐詞 向原生涯学習センターみらいの市民ギャラリーで観ることができます。

第5章 観光の振興と安芸高田市

1 観光の振興が市にもたらすものとは？

●なぜ、観光の振興が必要なのでしょうか。



最初に思いつくのは経済面です。観光に来た人はその場所で食事をする，土産物を買う，宿泊するなど，様々な形でお金を使います。観光にかかわる安芸高田の店や会社には，それが売り上げにつながります。つまり，観光客が増えれば仕事や雇用を生み出すことにもつながっていくのです。他にも，交流人口（観光などで訪れる人）が増えることで市民の生活に活気が出る，観光で安芸高田市の良さを知った人が定住をしてくれる「交流人口から定住人口へ」という動きを生み出すことにもつながる，といった効果が期待されています。

平成 25 年発地別総観光客と観光消費額

(単位:千人,円)

県内観光客数			県外観光客数								総観光客数	観光消費額
市内	市外	合計	中国	四国	九州	近畿	関東・中部	東北	北海道	外国		
555	596	1151	141	19	20	29	23	1	0	2	138万6千人	16億1千万円

平成 25 年広島県観光客数の動向より編集委員作成

2 「神楽」を中心に据えた観光

●安芸高田市はどのようなことで観光客を呼び込もうとしていますか。



「神楽」は全国に愛好者が多く，多くのファンを獲得しています。安芸高田市では，市内に22の神楽団があって盛んな神楽を「ひろしま安芸高田神楽」として観光の中心に据えています。

観光の拠点として，「神楽門前湯治村」が神楽の公演の場所として整備され，観光客を楽しませています。それ以外にも，市内のさまざまな場所や遙か遠くの東京などの県外でも公演が行われています。



↑「神楽ドーム」での公演の様子

神楽と安芸高田市

神楽では，神社や家に神を迎えたり，神託（神の意向）を授かったりするための「神事舞」と，迎えた神の偉大さやありがたさを称える「能舞」が奉納されます。広島県に伝わる神楽は，地域によって神事舞や能舞の演目や舞い方などに違いがあり，いくつかの系統に分類することができます。

こうした違いは，県内各地の神楽が，隣接する他県の神楽の影響を受けながら発展してきたことによって生じたものですが，安芸高田市は，島根県西部の石見地方の神楽が取り入れられ，演劇性が強く華麗な舞として有名です。

安芸高田の神楽の発展につくした佐々木順三

佐々木順三は1908（明治41）年、現在の安芸高田市美土里町本郷に生まれました。教員として教育に情熱を注ぐ一方、郷土文化の保存伝承にも力を尽くしました。

安芸高田の舞の誕生は、戦後の連合国軍総司令部（GHQ）による検閲⁽¹⁾を受けた時期です。当時、GHQは日本の精神主義⁽²⁾の復活に神経質になり、新聞、雑誌などの出版物を厳しく検閲しました。神楽の口上の台本も例外ではなく、厳しいチェックを受けました。それにより、多くの神楽団が神道につながるような口上を省略し、神楽は「農村舞楽」と呼ばれていました。

佐々木順三は、1948（昭和23）年ごろから謡曲や歌舞伎をアレンジした新舞の演目を多数創作し、その演目は自主規制を強めていた芸北地域の神楽として急速に広まっていきました。そのような時代を乗り越え、「芸北神楽台本集」を出版するなど、新作高田舞といわれる創作神楽を発表し、今日のような神楽人気の礎を築きました。



↑ 佐々木順三先生顕彰碑
（神楽門前湯治村）



↑ GHQの検印の入った台本
（佐々木部神楽団提供）

3 周遊型の観光地をめざして

安芸高田市には神楽以外にも多くの観光資源があります。戦国時代の毛利氏にまつわる史跡は国内でも有名ですが、他にも温泉施設、サイクリングコースなどのスポーツ施設、美術館などの文化施設、自然あふれる公園や産直市場などの商業施設まで多岐にわたります。これらを結び付けることで周遊型の観光（複数の観光地を巡って楽しむ観光）を観光客がするようになることをめざしています。それが実現できれば、大きな経済効果が期待できます。



↑ 土師ダムサイクリングターミナルと遊具



安芸高田市を訪れた観光客が、安芸高田市内の観光地を巡って楽しんでもらうためにはどのような工夫が必要なのだろう？

*注（1）検閲・・・国家などの公権力が、本などの表現物を検査し、不都合なものを取り締まること
（2）精神主義・・・物質的なものよりも精神的なものを優先して考える立場

第6章 魅力ある街へ 安芸高田市

1 安芸高田市ふるさと応援の会とは？

●なぜ、安芸高田市ふるさと応援の会がつけられたのでしょうか。



安芸高田市では、この街の魅力を広め、この街をもっともっと元気にしたいと願い、安芸高田市を知り・体験し・広めていくための会員組織「ふるさと応援の会」が平成23年8月に結成されました。

安芸高田市出身の方やゆかりのある方など、市内外を問わず広く募集を行ったところ、平成25年3月末現在で2,226名（安芸高田市内940名，安芸高田市外1,286名）の組織になりました。

地域	人数	地域	人数	地域	人数	地域	人数
安芸高田市	940	東京	80	奈良	2	高知	1
広島市	776	神奈川	40	大阪	25	福岡	6
県内その他	215	長野	1	和歌山	1	大分	1
北海道	6	富山	1	兵庫	15	熊本	3
宮城	1	静岡	1	岡山	11	長崎	3
茨城	1	岐阜	3	鳥取	2	沖縄	3
栃木	3	愛知	5	島根	3	アメリカ	1
群馬	1	滋賀	2	山口	12		
埼玉	16	三重	1	香川	2		
千葉	32	京都	6	愛媛	4	合計	2,226

↑ 会員の状況（平成25年3月31日現在）

（ふるさと応援の会第3回総会資料より）

2 安芸高田市ふるさと応援の会「関東支部」発足！

●なぜ、安芸高田市を応援する会が関東にできたのでしょうか。



関東支部の主な活動計画

①ひろしま安芸高田神楽東京公演の応援

「ひろしま安芸高田神楽東京公演を積極的にPRし、神楽公演を盛り上げる。

②ふるさと産品の新たな絶品づくりを支援

ふるさと産品のモニター制を提案し、人脈、情報の集中する関東の力を活用し、特産品の商品力向上や新たな絶品づくりを応援する。



↑ 関東支部設立総会の様子

③ 応援大使の起用

応援の会役員が中心となって「応援大使」となり、神楽や安芸高田市のイメージアップを応援する。

④ 会員拡大に向けた紹介

関東地区の会員同士のコミュニケーションを通じて、会員拡充を行う。会員がふるさとに貢献できる内容の把握に努める。



↑ 元広島東洋カープ選手
山本一義 さん

安芸高田市への思い



↑ 応援の会関東支部
会長
吉川京二さん
(向原町出身)

私は仕事の関係で全国を転勤し、長年ふるさとへの強い思いを持っています。そして、私が今まで培ってきた人脈や知識を駆使して、ふるさとに恩返しをしたいと思っています。私は今まで世界40か国を訪れましたが、改めて故郷の「向原」はよいところだと思いました。今は年2回向原町に帰省して、墓参りや家の管理を行っています。

関東支部では、ふるさと産品の絶品づくりに取り組み、安芸高田市に来たなら、絶対これは買って帰りたい、と思えるようなものをつくらなければならないと思っています。例えば、現在の神楽焼きに磨きをかけて絶品にするなどの目標をもち、取り組むことが大切です。また、耕作放棄地を活用した農業支援なども考えられると思います。私は、神楽がとても好きなのですが、文化面においては、安芸高田神楽の東京公演を行っていることで、関東圏にも少しずつ神楽が広まってきていると思います。関東支部としても東京公演をさらに盛り上げるため、応援していくことを考えています。様々な人と連携して、関東から安芸高田市にパワーを与えたいです。



会員になるとこんな

任務があるよ。

- 安芸高田市の魅力を知人、親戚の方々にPRしてください。
- 安芸高田市に対してのご意見などをお寄せください。
- たまには安芸高田市にお越しください。